

# 柏木教会月報 7月号

東京都新宿区北新宿 3 - 1 - 18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

## 悪の力との対決

ルカによる福音書八章二六―三九節

牧師 大浦 勝

イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい。」(二八節)

悪霊に取りつかれていた男は、ひとりで墓場に住んでいた(二七節)。彼は人々と共に生活することができず、人々を離れて、死の領域に住んでいた。しかも彼は近くを通りかかる者に危害を加えることもあったようである。町の人々が彼を鎖でつなぎ、足枷をはめて監視したのはそのためであろう。しかし、人間の力によっては、彼をつなぎ止めることはできなかった(二九節)。彼を捕らえていた力の激しさは、取りつかれたものを、死に向かつて崖を走り下らせる(直訳は「突進させる」)ほどのものであった(三三節)。キリストにその名を問われて、彼は「レギオン」と答えているが(三〇節)、これは約六千人からなるローマ軍の部隊のことである。ひとりの人に取りつく力としては、まことに強力な力である。

現在わたしたちはもはや「悪霊の支配」という考え方はしていないかもしれない。しかし、もしかしてこの世界には、わたしたち人間を超えた強力な悪の力が働いているのではないかと思う。人間を死に至らせ、この世界に恐るべき破壊と悲惨をもたらす悪の力が働き、わたし

たちを支配し、駆り立て、突き動かしているのではないかと思う。もしかしてわたしたち人間は、悪霊に取りつかれた豚の群れのように、破壊に向かって突進しているのではないかと危ぶまれるのである。

しかし、滅びるべきは悪霊である。わたしたちを突き動かし、この世界に破壊と悲惨をもたらしている力である。キリストはこの力と対決し、滅ぼすために来て下さった。悪霊に取りつかれていた男は、自分の前にいるのがキリストだと知ると、恐れおののいている。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい」(二八節)。しかし、キリストは悪霊に向かって、この男から出るようにお命じになる(二九節)。「底なしの淵」(三一節)こそ、悪霊とのかしらであるサタンがいるべき場所である。キリストは彼らをそこに閉じ込め、遂に滅ぼされる(黙示二〇・三、一〇)。

悪霊を追い出していたいた男は、「服を着、正気になって」キリストの足もとに座った(三五節)。悪霊は強い力でわたしたちを支配しているが、キリストはもっと強い方としてわたしたちのもとへ来て、わたしたちを悪霊の支配から解放して下さい。癒されたこの男は、来るべき神の国を指し示すしるしである。まだ悪の力は働いている。その支配の終わりは、来るべき神の国を待たなければならない。しかし、キリストは聖霊の力によって、わたしたちを悪霊の支配から解放し、神の国のために働く者として下さる。わたしたちは、神が自分にして下さったことを宣べ伝えることによって、来るべき神の国のしるしとなり、またその働き人となる(三九節)。